

菊池市の学校給食を考える会 公開質問状

1. 全国に広がりつつあるオーガニック給食を、熊本県において推進していく考えはありますか。

(回答)

熊本の食文化のブランド化を進める前提として、こどもたちに食の重要性を認識してもらうため、「くまもと食育戦略」を定め、食育を戦略的に進めます。オーガニック給食をくまもと食育戦略の中に位置付け、適切に推進します。

2. 国は「みどりの食料システム戦略」を掲げていますが、熊本県においても積極的に有機農業を推進していく考えはありますか。

(回答)

熊本の豊かな食文化を活かし、高付加価値化を進めることで、稼げる農林畜水産業を実現し、素晴らしい「食のみやこ熊本県」を創造します。「みどりの食料システム戦略」の一つの柱であるとともに、食の高付加価値化の観点においても有機農業は有効であり、有機農業や不耕起農業に取り組む農家・地域に対し、飲食店や給食等で商品化する実証実験を支援します。

3. 熊本県においては、企業の進出が相次いでおり、いかに農地・水・環境を守るかが重要な課題です。これらは、食と切り離すことのできない根源的な課題であり、農地及び地下水量の減少に対する懸念、そして環境においては、昨年検出された地下水や河川の PFAS 汚染など、毒性学の知見を鑑みても一刻も早い対応策を行うべきと考えますが、このことについてのお考えをお聞かせください。

(回答)

環境への配慮は熊本県にとって、そして県民の安全・安心にとって必須の課題。特に、熊本の水資源は世界に誇る財産であり、農地と共に確実に保全していきます。企業の進出に伴う地下水利用の影響を、①地下水利用量の制限、②地下水以外の水の利用の促進、③最先端技術を活用した排水の再利用（環境循環工業用水）の3原則で最小化します。河川・地下水の有機フッ素化合物（PFOS、PFOA）や規制外の化学物質に関する環境モニタリング、調査を徹底し、情報を公開します。

農地については、工場進出に対しても営農継続ができるよう、農地と工場とのベストバランスによる共存共栄を目指します。

農地・水・環境を守り、豊かで高付加価値かつ、安全安心な熊本の「食」を確かなものにします。